

## 第23回 茅ヶ崎海岸侵食対策協議会

### ◇ 開催概要

日時:令和7年11月15日 16:00~18:00

場所:藤沢土木事務所汐見台庁舎 1階会議室

出席者:委員14名、事務局13名、傍聴者6名

### 概要

#### ● 開会

- ・規約改定について報告した。

#### ● 報告

##### (1) 第22回協議会の概要(資料1)

- ・第22回協議会の内容を確認した。

##### (2) 茅ヶ崎漁港西側・藤沢海岸辻堂地区・相模川河口の現地調査

- ・茅ヶ崎漁港西側の飛砂堆積箇所付近の現地調査(資料2)
- ・藤沢海岸辻堂地区における飛砂堆積状況調査(資料3)
- ・養浜採取地としての相模川河口砂州の現地調査(資料4)

#### ● 議事

##### (1) 令和7年度養浜工事について

柳島地区:2,000m<sup>3</sup>、中海岸地区:10,000m<sup>3</sup>、菱沼地区:26,000m<sup>3</sup>

##### (2) 令和8年度養浜工事(予定)について

柳島地区:5,000m<sup>3</sup>、中海岸地区:10,000m<sup>3</sup>、菱沼地区:30,000m<sup>3</sup>

#### ● 閉会

## ☆ 委員意見概要

主な委員意見を整理した。(●意見、⇒意見に対する回答など)

### 報告に関しての主な委員意見

- 素人なので、意味がちょっとよく分からないところがあります。相模川河口、砂の上に植物が生えてきている。名前がとても難しく、ナガエツルノゲイトウですか。この名前は初めて聞いたのですが、普通に考えると、砂の上に植物が育つことは、素人目にはいいのではないと考えたのですけれども、養浜に対しては、悪影響があるということですよ。植物が生えて、浜ができてくると、一見、養浜上というか、海の景色というか、植物が生えたほうが、砂が動かなくなってくれるのではないかなと感じたのですけれども、どうなのでしょう。【鈴木委員】
  - ⇒ 植生が養浜に悪影響を及ぼすことでなく、ナガエツルノゲイトウは、特定外来種であり劇的に繁殖して在来種を駆逐するおそれがある。むしろ、植物が生えたほうが、砂が飛びづらくなる。コウボウムギのような、本来あった植生を竹す柵の前側に生えてくれるように誘導すべきである。【宇多副会長】
- 相模川の河口のところに非常にいい砂がある一方で、植生を取り除いたその下の砂の大きさを確認されているのですか。【飯島委員】
  - ⇒ 協議会時点では未確認ですが、令和7年度工事の実施時に、粒径を計測する。【事務局】
- 柳島の西浜地区のところに、サイクリングロードにから134号線へ渡る道、通路みたいなものがあるのですけれども、そこに相当砂がたまってしまっていて、通行できないような状態になっています。全体からするとすごい量ではないけれども、通行するのが大変です。なるべく早く取ってもらって、通行もよくして、砂浜再生のほうに使ってもらいたいと思います。【伏見委員】
  - ⇒ 134号、サイクリングロード、砂防林、海岸につきましても、藤沢土木事務所が所管している。海岸と砂防林、それからサイクリングロードに関しては事務局の所管になっているので、現地調査を行います。【事務局】

### 議題に関して主な委員意見

- 中海岸は、本当50メートルぐらい浜が広がりまして、礫も、入れた当初、「これは角が取れて丸くなっていくから、安心して」とおっしゃっていたのですけれども、そのとおりで、すごくいい感じになりました。浜が広がって、真夏の日中は暑過ぎて利用者がそんなにいないのですけれども、夕方とか、夏が終わりかけた頃は、一日中利用者が点在していて、今までこういう状況になればいいのにと感じていた状況になってきているので、すごく感謝しています。
- 以前は、砂浜幅が広がっても、意外と海底が遠浅ではなくて、サーフィン利用には、「これだけ浜があっても、利用できないじゃないか」という感想をみんな持っていたのですけれども、サンドエンジンにしてから、サーフィンができる場所も増えてきたし、すごくいいので、この方式をどんどん取り入れてほしいです。
- あとは、野球場の前の砂の積み方が以前は高くて、サイクリングロードから全然海が見えなかったの

ですけれども、今は低くなったので、見晴らしがよくなって、すごくいい状態です。感謝しています。

【伏見委員】

⇒ 砂浜から海底の地形まで、効果が実感できることはすばらしい。【小林会長】

- 中海岸ですが、これから先も入れていかないと砂浜は維持ができないのですか。【真間委員】

⇒ 毎年3万立方メートルもの大量の砂を入れていたが、その量を継続する必要はない。海浜を回復しようとする段階では大量の砂が必要だが、今は砂の需要と供給のバランスがとれている。しかし、現状の砂浜を維持するためには、菱沼海岸側に毎年約1万5,000立方メートルの砂が移動しており、同程度量の砂を追加する必要があるが、過剰に投入すると漁港の入口が浅くなる問題もあるので、養浜量は継続して確認していく。【宇多副会長】

- ダムから持ってくる砂は、どういう感じで持ってくるのですか。小田原の土木事務所に聞いたら、砂自体を洗って持ってくるらしいです。洗って浜に持ってきてストックしているみたいです。【真間委員】

⇒ 仮置きすることで自然な洗浄がある程度期待できる。ダムの上流で採取した砂を、直接投入せず、環境インパクトを少なくしている。【宇多副会長】

- 茅ヶ崎で今ハマグリを増やしていて、それに対して、砂がすごく汚いとか、粒がでかいというと、繁殖できなくなる。【真間委員】

⇒ 砂の粒の大きさが0.2ミリから0.4ミリぐらいで、泥を含む率が10%以下の砂で養浜している。粗砂と細砂を一緒に入れると、それぞれどこに堆砂するのかわかり、想定するようになっている。貝も取れるような環境になったほうが良いが、茅ヶ崎海岸海域を一度で全部よくすることは無理である。海域をよく知っている漁業者と相談しながら、モニタリングした結果を改善に繋げていくため、事務局と相談していただきたい。【宇多副会長】

- シラス漁は、茅ヶ崎市を支える一つの事業で大きな意味がありますし、浜をつくることは、イコールこの周辺の漁業をある意味育てることでもあるわけなので、地域のシラスが我々の口の中に入ってくるわけなので、ぜひとも浜をつくることと、その領域の海を育てていく、つくり上げていくことを一緒に考えていただきたい。【高山委員】

以上